

留学生の視点から見る日本の世界農業遺産のイメージ分析

ー和歌山県みなべ・田辺世界農業遺産を事例にー

○黄琬恵*, 吉積巳貴* 京都大学森里海連環学教育ユニット*

I 背景



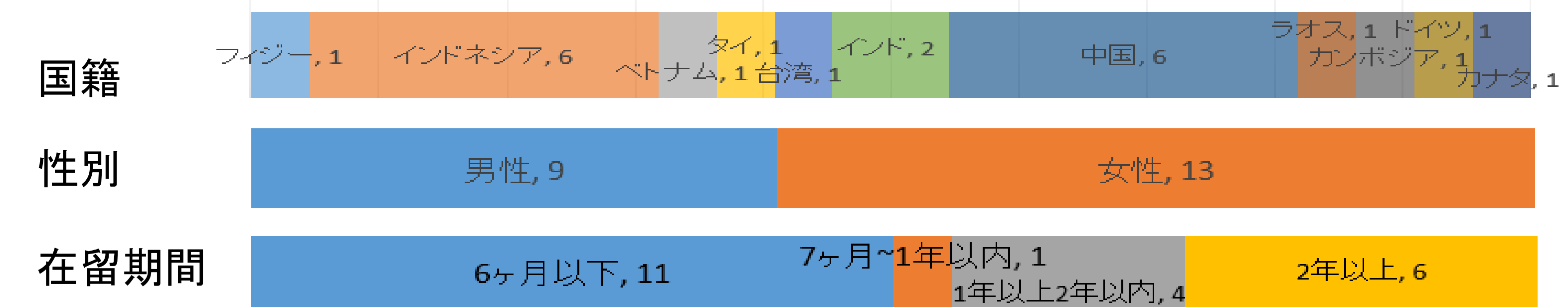
・2017年7月に、みなべ田辺世界農業遺産の指定地域を選び、外国人大学院生(20~37歳)を対象にしたエコツアーのモデルプログラム(1泊2日)を実施。留学生の視点から見る日本の世界農業遺産のイメージと外国人誘致の課題を明らかにする

II 調査方法

・景観イメージの評価方法は(Semantic Differential Method、SD法と略)；評価対象は母国とみなべ・田辺地域それぞれの森・里・海。

・実習のモデルプランに関する感想とアドバイスは自由記述方式のアンケートで集め、段落とキーワードの集計と対応分析を行う。

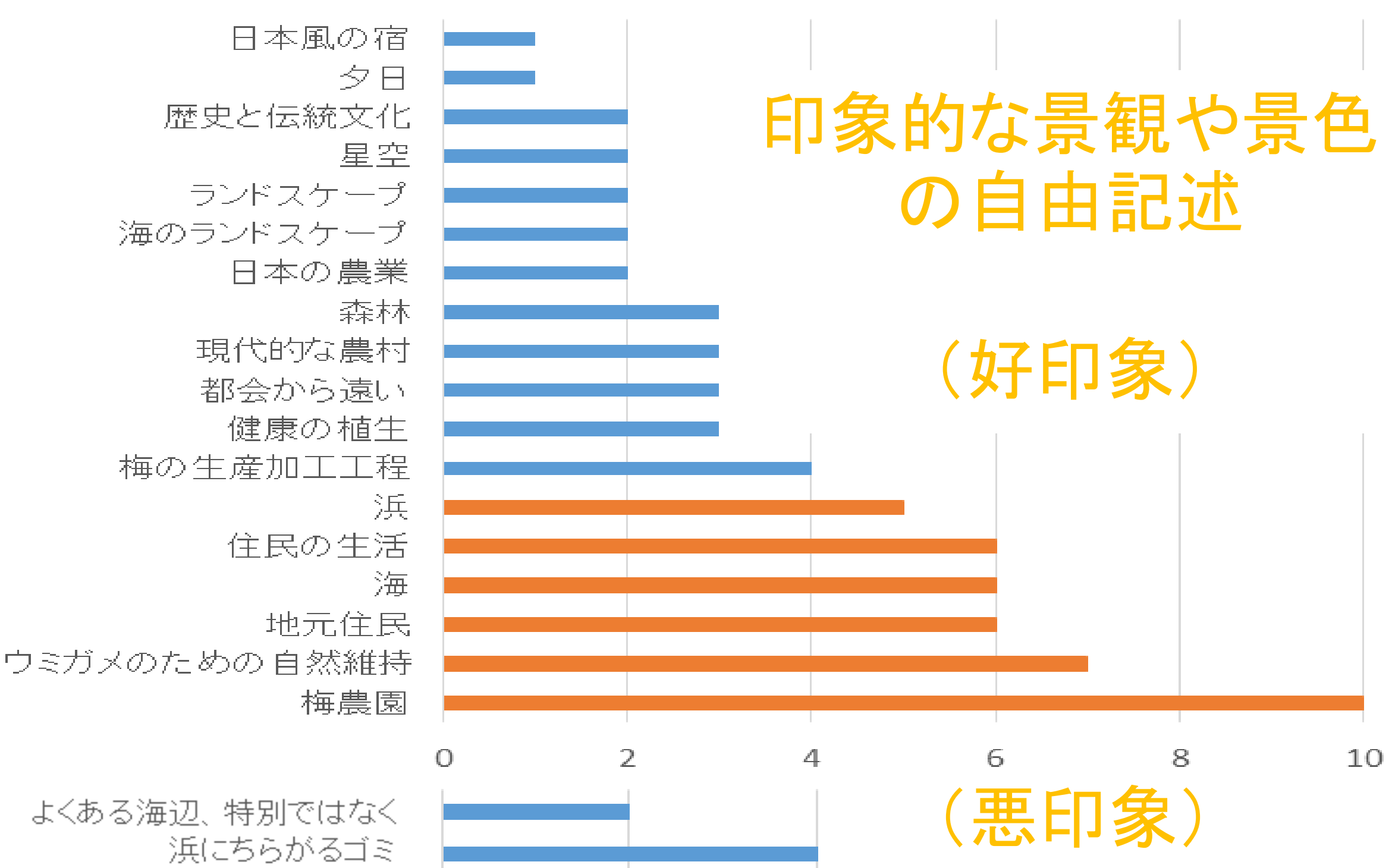
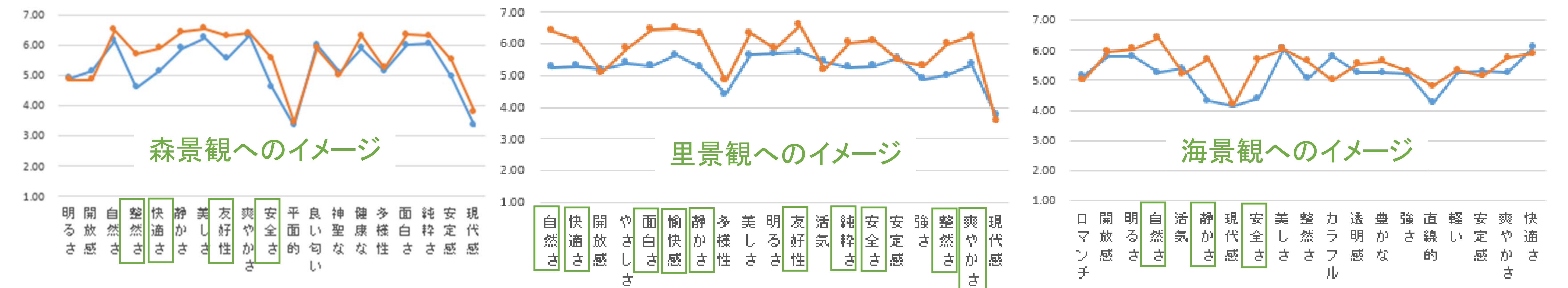
・参加者の基本情報(22名)



・プログラム内容



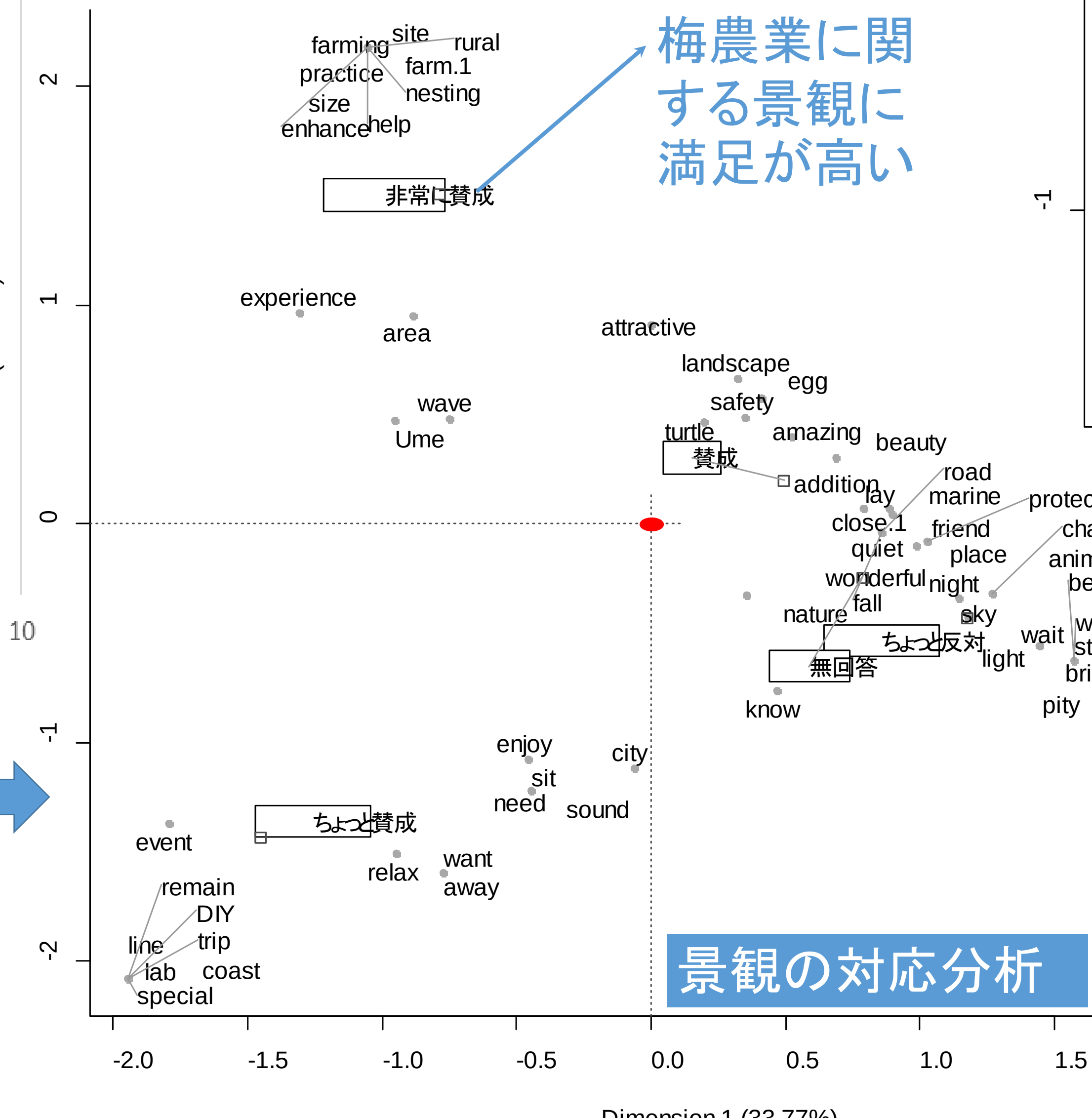
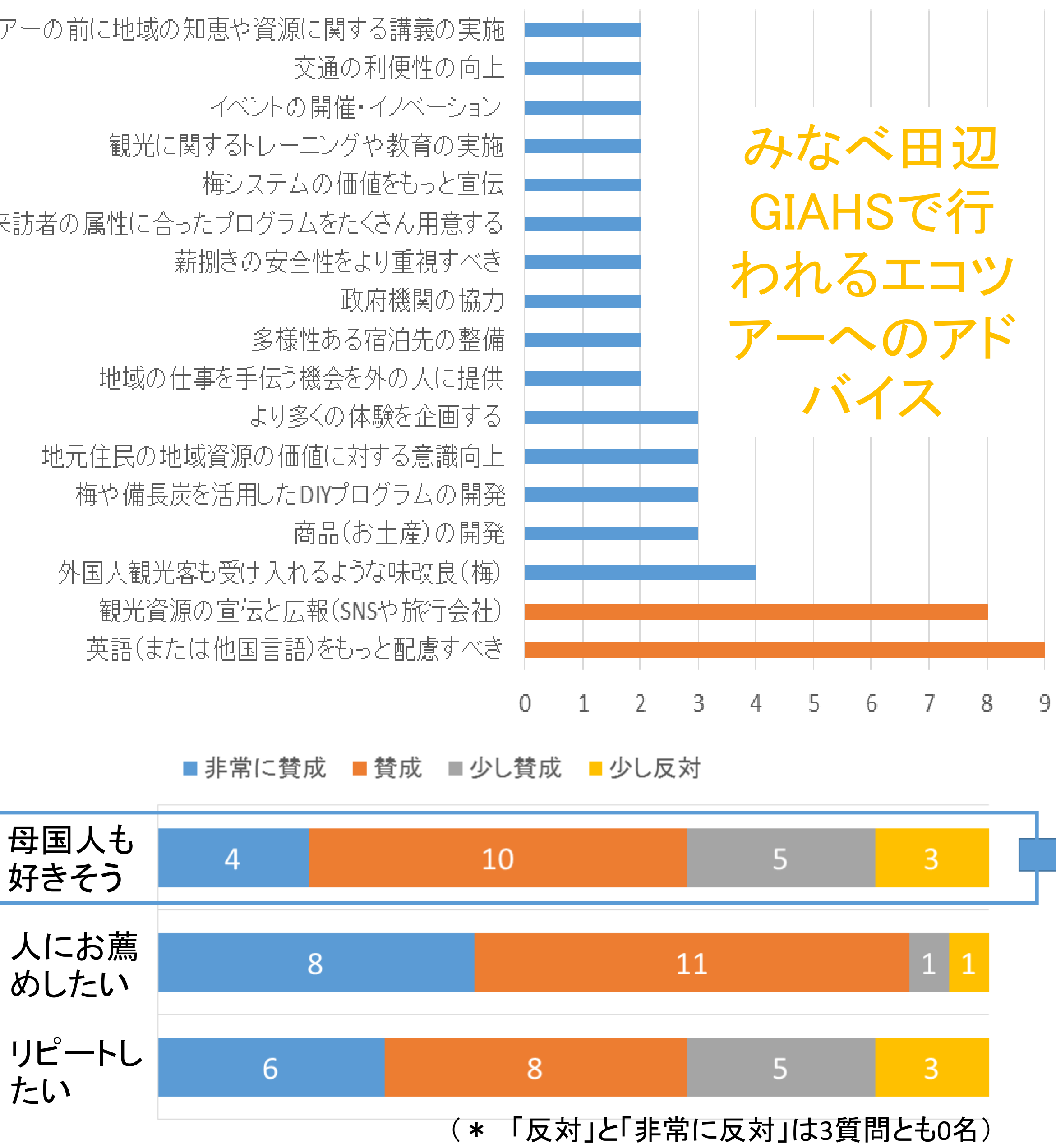
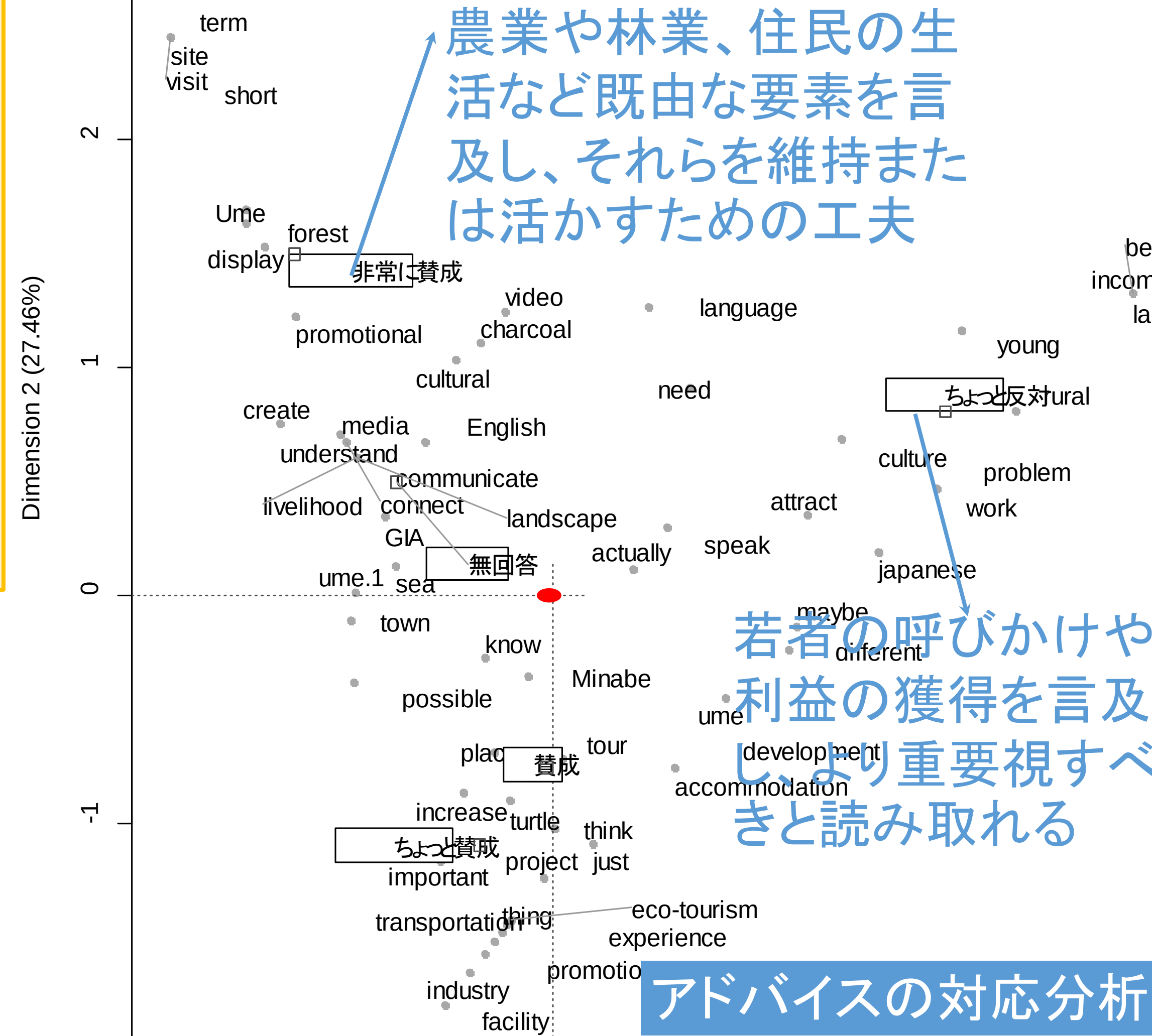
III 結果と考察



・景観(森・里・海に分け)におけるイメージ調査(SD法)の結果では、みなべ田辺の景観へのイメージは母国よりも高く評価されていることが明らかにされた。特に差異が著しい項目を赤く示し、より具体的に留学生の調査地に対する好印象の中身を把握することができた。

・景観に関する自由記述では、梅農園、ウミガメのための自然維持、地元住民とその生活、海と浜が好印象として複数名の留学生に述べられている。その一方、悪印象については浜に散らかっているゴミが指摘。

・みなべ田辺におけるエコツアーの実施へのアドバイスについては、英語に関する配慮と強化、観光資源の宣伝と広報(SNSや旅行会社の活用)が多く述べられている。



IV 結論

・イメージ調査と自由記述の集計を通じて、みなべ田辺における景観の魅力と外国人向けエコツーリズムの課題をピックアップできた。

・自由記述のテキストマイニングについてはコレスポネンシ分析を行ったが、サンプル数が少ないため、属性や回答別による説明が困難。今後はより適した分析方法を探索。